

令和6年度農作物病虫害発生予察技術資料第14号

令和7年(2025年)3月27日
山口県病虫害防除所

イチゴのアブラムシ類およびアザミウマ類の発生状況と防除対策について

現在、イチゴほ場でアブラムシ類とアザミウマ類の発生が増加しています。
今後、被害の発生が予想されるため、防除対策の徹底をお願いします。

1 発生状況と今後の予想

- (1) 3月下旬の巡回調査では、アブラムシ類は、発生ほ場率40.0%(平成21.1%)、寄生株率8.1%(平成2.1%)で平年に比べ多かった(図1)。主要種は、ワタアブラムシ(写真1)で、一部で多発生ほ場が認められた。
- (2) 3月下旬の巡回調査では、アザミウマ類は、発生ほ場率70.0%(平成37.2%)、寄生花率5.3%(平成3.7%)で平年に比べやや多かった(図2、3)。主要種は、ヒラズハナアザミウマ(写真2)で、一部で多発生ほ場が認められた。
- (3) 福岡管区気象台の1か月予報(3月20日発表)では、気温は平年並または高い見込みであることから、今後発生増大が予想され、アブラムシ類による生育不良やアザミウマ類による果実被害が増大する恐れがある。

2 防除対策

- (1) 花や新葉をよく観察し、発生を認めた場合は直ちに薬剤を散布する。薬剤散布後は防除効果を確認し、効果が低い場合には他系統の薬剤により再度防除を行う。
- (2) アザミウマ類は、寄生花率が10%以上となった場合には複数回の防除を行う。
- (3) 防除薬剤は、「イチゴのアブラムシ類・アザミウマ類に使用可能な主要薬剤」を参照する(表)。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (2) 薬剤散布を行う場合は、ミツバチへの安全日数およびカブリダニ類への影響を考慮する(表)。
- (3) 薬剤散布の際は、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止する。



写真1 ワタアブラムシ



写真2 ヒラズハナアザミウマ

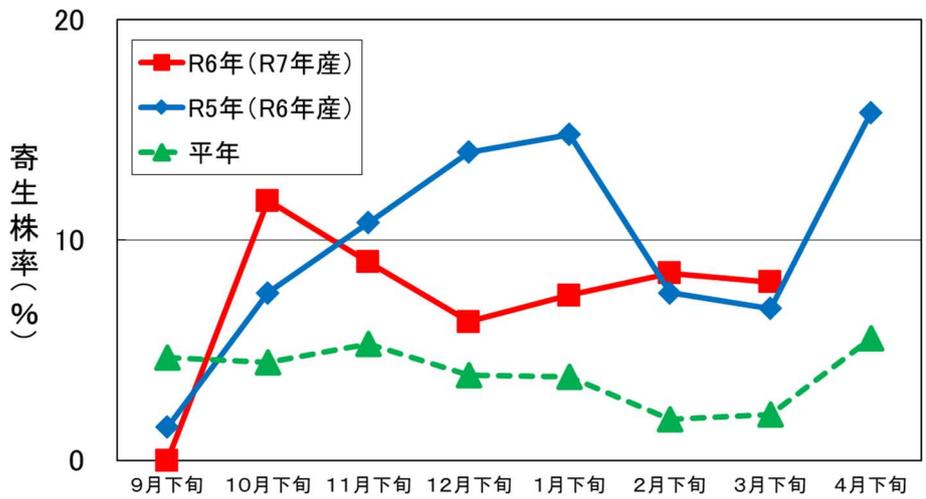


図1 イチゴ アブラムシ類の発生推移

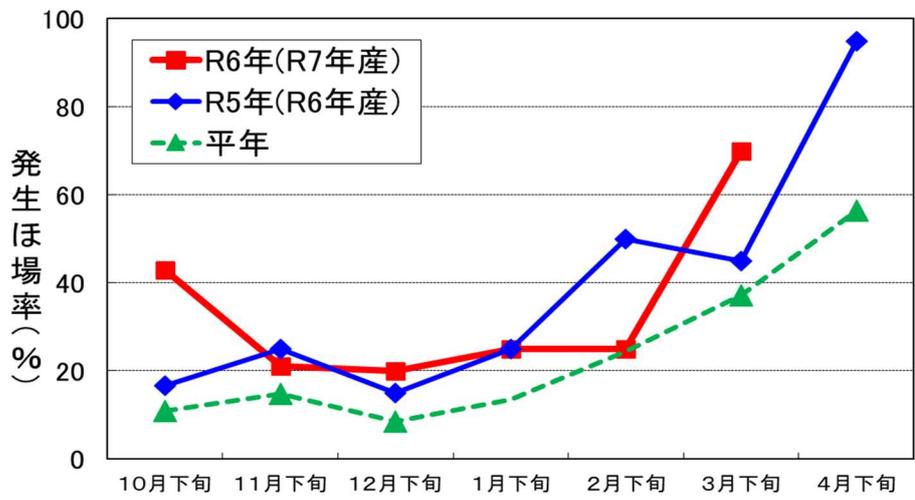


図2 イチゴ アザミウマ類の発生推移(発生ほ場率)

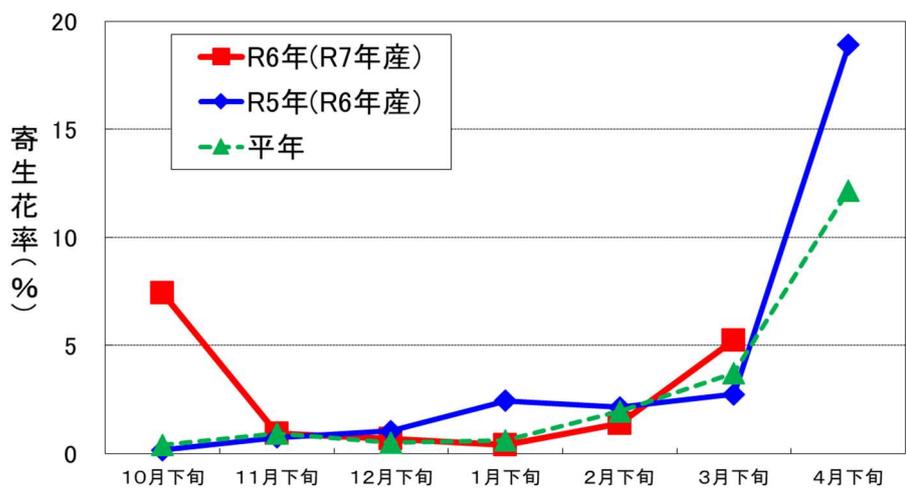


図3 イチゴ アザミウマ類の発生推移(寄生花率)

表 イチゴのアブラムシ類・アザミウマ類に使用可能な主要薬剤

殺虫剤コード	商品名	アブラムシ類	アザミウマ類	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	ミツバチの 安全日数	カブリダニ類への 影響
UNF	ポタニガード水和剤	○	○	1000倍,100~300リットル/10a	—	—	—	—
	ポタニガードES	○	○	1000倍,100~300リットル/10a	—	—	—	—
—	粘着くん液剤	○		100倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	—	薬液が乾けば 影響ない	○~△
	ムシラップ	○		500倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	—		○~△
	フーモン	○		1000倍,150~500リットル/10a	収穫前日まで	—		○~△
	サフオイル乳剤	○		300~500倍,100~500リットル/10a	収穫前日まで	—		○~△
	サンクリスタル乳剤	○		300倍,150~500リットル/10a	収穫前日まで	—	翌日	○~△
	オレート液剤	○		100倍,100~300リットル/10a	発生初期~ 収穫前日まで	—		○~△
	エコピタ液剤	○		100倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	—		○~△
	ピタイチ	○	○	500倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	—		○~△
	サンヨール	○		500倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	6回以内		薬液が乾けば 影響ない
3A	アーデント水和剤	○	○*	1000倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	4回以内	2~3日	×
	マブリック水和剤20(劇)	○		8000倍	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
4A	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	○	○	2000~4000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○~△
	モスピランジェット(劇)	○	○	400立方メートル当たり50g	収穫前日まで		翌日	○~△
5	ディアナSC		○	2500~5000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	3~7日	△
	スピノエース顆粒水和剤		○	5000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで		3~7日	○
—・5	ダブルシューターSE		○	1000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	3~7日	×
9B	チェス顆粒水和剤	○		5000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	薬液が乾けば 影響ない	◎
15	アタプロン乳剤		○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	処理翌日で影 響なし	○
	カウンター乳剤		○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	4回以内	翌日	◎
	カスケード乳剤		○	4000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	翌日	○
	マッチ乳剤		○	1000~2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	4回以内	翌日	◎
23	モベントフロアブル	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	翌日	×
28	ベネビアOD	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	翌日	○
29	ウララDF	○		2000~4000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	薬液が乾けば 影響ない	○
30	グレーシア乳剤		○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
34	ファインセーブフロアブル(劇)		○	1000~2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	翌日	○

「野菜類」、または、「野菜類(施設栽培)」での登録を含む

*アーデント水和剤はミカンキイロアザミウマでの登録。

ミツバチへの影響日数、カブリダニ類への影響はメーカー技術資料、各県の資料等を参考に設定した。

(◎:影響が小さい、○若干の影響あり、△:影響あり、×:強い影響あり)